

新たに購入する
バッグの予算は
いくら?

DESIGNER INTERVIEW



INTERVIEW 03

山笑う 山口智子 / 「山笑う」総合企画・デザイナー
“欲しい”という心の声には
責任を持たなきゃ

「40歳をすぎて、やっと自分の足元にある幸せや美しさに気づくようになった」と、「山笑う」を立ち上げた山口智子は語り始めた。女優であり、アーティストでもある彼女はひとつひとつ言葉を選びながら、丁寧に自分の思いを口にする。「早すぎる時間の流れの中で、忘れそうになっている、大切な日本文化の素晴らしさをもっとたくさんの人に身近なものとして捉えて欲しい」。そうして始まったブランドが「山笑う」だ。

ウエア、食器を経て、今秋「ソメスサドル」と共同でバッグをスタートした。「皮革の分野は初体験。日本にも皮革の老舗があるのを初めて知った。工場に足を運び、職人と話し合いながら作業を進めるというのがブランド開始時からの彼女のスタンスだ。今回も北海道の工場に向かい、「職人さ



1. スリムクラッチ 3万1,500円 2. トートバッグ(大) 5万8,700円 3. マルチケース 2万4,150円 4. バック型ワンショルダー 4万8,300円

んと話をすると、彼らが本当に心を込めてモノ作りをしているのが伝わってくる。だから、作りたいものを妥協するのが一番良くない。“欲しい”という心の声には責任を持たなきゃ(笑)。

彼女の作品はフラットな皮革の面を柔軟な発想力でバッグという形に落とし込んでいる。作り込ん

だ感じではなく、バッグ自体が自然なラインを描くのはそのためだろう。「皮という自然の命を頂いているのだから」と話すように、作品の大半を占めるヌメ革のアイテムは月日を重ねるごとに味わい深くなっていく。使い込みながら成長を見守って欲しいのもまた、ひとつの楽しみだろう。

いとは?

最近では日本でのビジネスを積極的に展開しようとするバッグデザイナーの来日が増えている。ヨーロッパや東京で活躍する4人のデザイナーに、“バッグに込めた”それぞれの思いについてインタビューした。



INTERVIEW 04

VARGU レナード・マーゲリック / 「ヴァルグ」デザイナー
「エコノミー」と「クリエイティビティ」の
両方を体現している

スイスのバッグブランド「ヴァルグ」は10月30日～11月3日までの東京デザイナーズウィーク期間中、東京・神宮外苑の特設会場で開かれた100%デザイン内の展示会「ブリックファンク」に出展した。同展には主にドイツやオーストリア、スイスから、ファッションやプロダクトデザインなど幅広い分野のクリエイターの作品が集まっている。

会場で一際目を引いていた「ヴァルグ」は“リサイクル”をコンセプトにする。車の内装部品、自転車用のシートやタイヤ、コーヒーやティバッグなど毎日の生活用品から、工場の廃棄物や広告印刷物まで幅広い素材を再利用してユニークな作品を作り出す。インドの工場ですべてひとつひとつ丁寧に仕上げているというバッグや小物類はすべて一点ものだ。中には、自転車のタイヤ部分をそのままベルトに用いた



1. 「ブリックファンク」展示会の様子 2. ショルダーバッグ 1万6,062円 3. バックパック 2万1,399円 4. 財布 1万659円 5. ビッグバッグ 3万9,153円 6. ベルト 1万959円

ような、“前の形がわかる”リアルな商品も。リサイクル可能な素材は丈夫であることが多く、それがそのままバッグとしての耐久性につながっている点も見逃せない。

デザイナーのレナード・マーゲリックは、バッグデザイナーとしては異色の経歴を持つ。以前はス

トック・マーケットで働きながら、アーティストとしての活動も行っていた。「[エコノミー]と[クリエイティビティ]。この2つのキーワードを結びつけるのが、エコとフェアトレードを推進しながらのバッグ作りだ。また、小規模での活動だが、今後は日本をはじめ世界各国でビジネスを展開したい」。